

佐藤先生に聞く!

## 総合科学部30周年記念行事

### 6月12日(土) 歴代学部長座談会

- ・設立当初の夢や学部運営の苦勞を語っていただく

新聞記者の経験もある  
平岡さんの話は貴重!

### 6月5日(土) 30周年記念式典

- ・挨拶
- ・初代学部長今堀誠二先生のご親族が、総科に先生の学士院賞の賞状と賞牌を寄託
- ・記念講演…講師:平岡敬氏(元広島市長 中国・地域づくり交流会会長)
- ・植樹式(総科一本 同窓会一本 計二本)
- ・パーティー

各界で活躍されている方々  
に来て頂きます。なかなか聞  
けるものではありません!

### 7月3日(土) 30周年記念シンポジウム

- ・主旨 『21世紀の文明と環境—総合科学の課題と可能性—』

パネリスト:学外の方 3人(阿部謹也さん、瀬名秀明さん、長谷川真理子さん)

総科から 1人

司会:総科から 1人

時間:約2時間

☆これをもって新しい総科への活力にする(「総合科学系大学院」設立など)

### 記念公開講座

1. 言語分野
2. 心理学分野
3. アジアの映画
4. 瀬戸内と地中海
5. オリンピックに関すること

○サンクスエア東広島、広島市、尾道市、三次市で開催されます。

○1日で完結する講座と4、5回に分けて行われる講座があります。

○開催時期は未定です。

**その他** 総合科学研究叢書の出版(シンポジウムの記録、研究成果などを世に問うために)

## 《シンポジウムゲストの方の略歴》

**阿部謹也(あべ・きんや)**

東京都出身。一橋大学院社会学研究科博士課程修了。現在共立女子大学学長。専攻はドイツ中世史。社会史のなかに法制史、政治史、経済史をふくめ、さらに民衆などにも目をむけて、独自の歴史観を構築。著書に『ハーメルンの笛吹き男—伝説とその世界』(ちくま文庫.1974)、『日本社会で生きるということ』(朝日新聞社.1999)、『日本人はいかに生きるべきか』(朝日新聞.2001)など多数。1980年『中世を旅する人びと』で第2回サントリー学芸賞、81年には『中世の窓から』で大佛次郎賞を受賞しておられます。

**瀬名秀明(せな・ひであき)**

静岡県出身。東北大学院薬学研究科博士課程修了。薬学博士。1995年に『パラサイト・イヴ』(角川書店)で第2回日本ホラー小説大賞受賞。他に『BRAIN VALLEY』(角川書店.1997 第19回日本SF大賞受賞)、『八月の博物館』(角川書店.2000)、『ロボット21世紀』(文春新書.2001)などの著作があり、ノンフィクションでも高い評価を得ておられます。

**長谷川真理子(はせがわ・まりこ)**

東京都出身。東京大学理学部生物学科卒。理学博士。現在早稲田大学政治経済学部教授。現在の研究課題は、クジヤクにおける配偶者選択、リスク評価と殺人の心理、親による子の世話の性差別、死亡率性差など。最近の著書は『進化と人間行動』(東京大学出版社)、『進化とはなんだろうか』(岩波ジュニア新書.1999)、『科学の目 科学の心』(岩波新書.1999)、『オスの戦略 メスの戦略』(NHK出版.1999)など。ダーウインの著作の翻訳などもなさっています。

## 今からチェックしてみてもは？

## 準備会代表・佐藤正樹先生の意気込み

私はこの三十周年記念行事に意地をもって臨んでいます。

はじめに学部長からこの記念行事の準備会代表を依頼されたとき、これを固辞しました。なぜなら私は現在、大学、さらに日本全体を覆っている価値観に賛同できないからです。その価値観とは、効率や生産性ばかりを求めて、二よりも三、三よりも四といったような、数値に表れる結果を重要視し、競争を促すものです。確かに、不景気などの原因で仕方のない面もありますが、このような価値観が大学に滲透し、産業と密接に結びつく研究や、目に見える形の成果ばかりがもてはやされています。いくつ賞をとったか。何本論文を書いたか。私はそのような目先の結果ばかりを追うことに懸念をいただいています。しかし、全体の流れとしてそれが総合科学部の価値観となりつつあるのなら、私は代表としてふさわしくないだろうと考えたのです。



しかし、学部長はそのような私の考えを理解した上で、この役目を依頼されました。それならば、意地をもつて、この記念行事をすばらしいものにしたいたいと思うのです。行事には、文理の枠を超えて、今の時代を高い視点から見ることのできる方々をお招きしています。期待していただく。

そしてもうひとつ、総合科学部は現在、学部の上に大学院を持つていないことから明らかのように、学内で比較的低い位置にたっています。この記念行事で、総合科学部の存在を学内外にアピールしたい。先生方のご協力を得て、それが可能となるような立派な行事をし、出版物を作りたい。そのような意地も、持っています。

私は決してイベントの専門家ではないので、どこまで出来るかはわかりませんが、意地は意地として貫くつもりです。ただし、準備会にはいろいろな先生方がかかわっておられます。これはあくまで私一人の考えであること、付け加えておきます。《談》